

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能事業所 おれんじエコル (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	7年 1月 14日		7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	7年 1月 10日		7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムの考案及び児童への実践が、科学的な根拠に基づく手法、技法で行われていること。	アセスメント (評価)、原因の究明、解決方法、また成長を促すための方法等について、一人ひとりの児童に対して「仮説」「実施」「検証」を繰り返し実践する。またスタッフ全員にスキル向上のための個別ミーティングを行っている。	知識、スキルにゴールはないので、謙虚に学び日々アップデートする。スタッフの専門資格取得への更なるバックアップを行う。
2	児童発達支援および放課後等デイサービス事業を同時に行う「多機能事業所」であるため、児童が児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行が様々な面でスムーズに行われる。	児童および保護者のこれまでのデータがスムーズに引き継がれ、また児童本人も慣れた環境、慣れたスタッフで負荷なく移行ができる。	児童が新たに通う学校との関係構築、また家での新しい生活習慣についても密に連携を行えるよう更に工夫していく。
3			

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援および放課後等デイサービス事業を同時に行う「多機能事業所」であるため、営業時間いっぱいには児童が所在していることにより、スタッフ全員が集まる全体会議を行う機会確保が難しい。	児童が所在するサービス提供時間を超える営業時間 (営業時間を長くすること) の設定が難しい (なるべく長い支援時間に対するニーズとスタッフの労働時間との調整)。	残業や休日出勤により開催することもあるが、全体会議を実施する際に、常勤スタッフ以外の非常勤スタッフに応援に入ってもらうなど工夫が必要。
2			
3			